



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	三島工場建設計画	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.4 /5		がんばろう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0 /5		ふつう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点		2.4			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①屋根・外壁には断熱性能の高い材料を、窓ガラスにはLow-E複層ガラスを使用による外皮性能の向上。 ②建物南面に窓を多く配置。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤⑥敷地周辺に緑地帯を確保。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦屋根・外壁には断熱性能の高い材料を、窓ガラスにはLow-E複層ガラスを使用することによる建物外皮の熱負荷抑制。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬舗装材に再生加熱アスファルト混合物の採用など、適切な材料選定を行うことで、非再生性資源の使用量削減に配慮。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭⑮CO<sub>2</sub>排出率を低減し、大気汚染防止と地球温暖化に配慮。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
				2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
		2			⑧	自然エネルギー利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
			4.2		⑩	運用管理体制	
	LR-2	1	1.1		⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1		⑫	材料使用量の削減	
			2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用	
			2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
			2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
			2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点		3.0			
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯構造設計は、『静岡県建築構造設計指針・同解説』に基づいた設計をしている。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点		3.0			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲⑳階高にゆとりのある設計をしている。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑計画建物の壁面はなるべく敷地境界線から後退させ、敷地周辺に緑地帯を確保することで、周辺のまちなみとの調和と建物による圧迫感の低減に配慮。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
	Q-3	3	3.1		⑳	地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点		3.0			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉒計画建物の壁面はなるべく敷地境界線から後退させ、敷地周辺に緑地帯を確保することで、周辺のまちなみとの調和と建物による圧迫感の低減に配慮。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖風を回復させるよう建築物間の隣棟間隔に配慮。</p>	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出	
		2				㉑	まちなみ景観への配慮
		3	3.2			㉒	敷地内温熱環境の向上
	LR-2	2	2.5		㉕	持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3	2	2.2		㉖	温熱環境悪化の改善	

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_速報版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三島工場建設計画	階数	地上4F
建設地	静岡県三島市安久43-2	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街化調整区域	平均居住人員	205 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年9月30日
敷地面積	18,592 m <sup>2</sup>	作成者	篠宮 直人
建築面積	8,835 m <sup>2</sup>	確認日	2024年9月30日
延床面積	18,487 m <sup>2</sup>	確認者	田中 英俊



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 3.0  
Q1 室内環境: 3.1  
Q3 室外環境(敷地内): 2.8  
LR1 エネルギー: 2.9  
LR2 資源・マテリアル: 2.8  
LR3 敷地外環境: 3.2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合		その他
省エネルギー、省資源、リサイクル性能といった環境への配慮とともに、室内環境の快適性、建築物の長寿命化、景観への配慮なども含め建築物の総合的な環境性能を評価できるように計画している。これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。		建設リサイクル法による届出を行い、廃棄物の削減に努める。
<b>Q1 室内環境</b> 化学汚染物質の発生が少ない建材を中心に使用し、また居室には適宜開口部を設けることで、室内空気環境の向上に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室その他主要な室はすべて天井高さ2.7m以上を確保し、適宜開口部を設けることで、建物利用者の快適性向上に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 計画建物の壁面はなるべく敷地境界線から後退させ、敷地周辺に緑地帯を確保することで、周辺のまちなみとの調和と建物による圧迫感の低減に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 屋根・外壁には断熱性能の高い材料を使用し、窓ガラスにはLow-E複層ガラスを使用することで、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 適切な材料選定を行うことで、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> CO <sub>2</sub> 排出率を低減し、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される